

ひびく再動鼓と館しこ

2015.12.19 夕刊 (京都新聞1面)

2010年に閉館した「私のしこ館」が京都府に無償譲渡され、研究施設けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）＝木津川市・精華町として、4月に再び鼓動を打ち始めた。情報通信やエネルギー、バイオなど異なる分野で、企業など7団体が研究に取り組んでいる。共通するテーマは「暮らしや社会をより豊かにする未来」だ。（山木秀二、住吉哲志）

太陽を追跡

畳24枚と同じ大きさの太陽光パネルが5分ごとに少しずつ角度を変えていた。KICKの一角。太陽の軌道を追いかけるようプログラムリングされている。この追尾式は、固定式より30%多くのエネルギーを生み出す。日本テレネット（京都市中京区）が、商業電力に頼らない「エネルギーの地産地消」を目指し、家庭と同様にオフィスの電力を太陽光だけでまかなえる方法を探っている。

太陽光や風力による再生可能エネルギーは天候に影響される。いかに発電量が一定しない不安定な電力を安定した電力に変えるかが課題だ。コネックスシステム（上京区）は、次世代型蓄電池として、鉄の酸化・還元反応を利用する装

置の研究開発に取り組む。春山佳亮取締役（45）は「安価で安全な鉄を燃料にする革新的な電池。電気自動車に搭載して走行距離を伸ばし、普及に役立てる」と話す。けいはんなグリーンイノベーションフォーラムは、企業や大学、住民が連携し、省エネのあり方や木津川流域の地域活性化を探るセミナー開催を計画する。

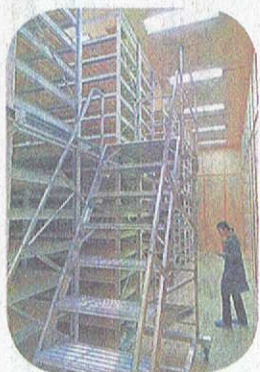
水泡で洗浄

トリビオックスラボラトリーズ（左京区）は、泡の粒を細かくする装置を開発している。ノズルから髪の毛断面の半分ほどの微細な泡が水槽に勢いよく吹き出す。すぐには消えず、水を白濁させる。平賀哲男副代表（67）は「薬品を使わず、水の泡だけで油を洗浄できる」と話す。現在は工業用だ

豊かな未来 研究拠点に

KICK 京都府が旧「私のしこ館」の再活用に向け、大学や企業などの共同研究拠点と位置付ける。高度な情報通信技術を交通や暮らしの安心安全、健康など幅広い分野に生かす「スマートシティ」が研究テーマだ。

災害時に文化財を一時避難させる役割も担う収蔵庫(京都国立博物館提供)



が、家庭での需要を視野に入れる。キノコの発酵作用を使い、黒大豆の有効成分を抽出するのはヘルスビューティー（中京区）。杉田征彦社長（48）は、病気の妻が京丹波産の黒大豆を食べて体調を回復した経験から、黒大豆に着目し、健康食品を開発した。キノコによる発酵で、たんぱく質が分解され吸収しやすくなるという。この技術を応用した化粧品を開発する。豆一粒の力を最大限に引き出す。

・Kyoto 普及

「.com」や日本限定の「.jp」が多くを占めるインターネットサイトやメールアドレスのドメインに「kyoto」が新設された。京都を世界に発信できる利点がある。第1号は茶道真千家。京都情報大学院大（左京区）の「サイバール京都研究所」は、10月に販売が始まった「kyoto」の普及と危機管理の研究を担う。11日時点で問い合わせは851件に上る。

京都国立博物館（東山区）は、100平方メートルの収蔵庫を2室開設した。耐火性や気密性が備わった既存施設。同館から文化財を移すとともに、災害時の避難を想定する。「貴重な文化財の多い京都にはいざという時、頑丈で広い施設が必要」と宮川禎一・列品管理室長（56）は話す。京都の価値を守るためのことだ。

ノズルから吹き出し、水槽を白濁させる微細な泡。薬品を使わずに油汚れを処理する効果が期待される(トリビオックスラボラトリーズの研究室)



太陽の軌道に合わせて動く追尾式の太陽光パネル(奥の2基)＝木津川市精華町のKICK

